

近畿圏における障害のある人の 芸術文化活動に関する調査

(令和6年度障害者芸術文化活動普及支援事業)

2024年
8月18日(日)
回答締切



①団体調査

* 団体(近畿圏内の障害者福祉サービス事業所、特別支援学校、絵画教室などのアトリエ等)

1. 現在、事業所の活動としてアート活動を行っていますか。

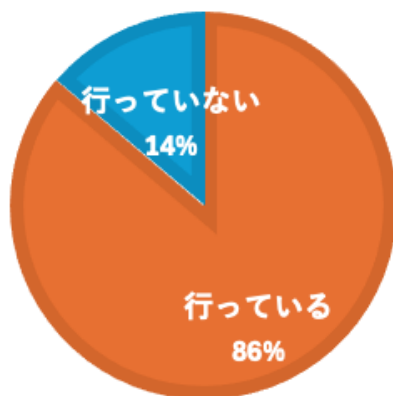
県別の、回答数、回答内容、「行っている団体」と「行っていない団体」の比率は下記の通り。
ただし、「行っている」団体が積極的に回答している可能性があるため、これが県内の事業所での比率には、そのまま当てはまらないと考えられる。また、滋賀県については回答数1件のため、比率は算出していない。

回答団体の障害福祉サービス種別は、児童発達支援、就労継続支援B型、生活介護、居宅介護、訪問介護、個人の絵画教室、養護学校、ろう学校等

奈良県

1. 現在、事業所の活動としてアート活動を行っていますか。

■ 行っている ■ 行っていない

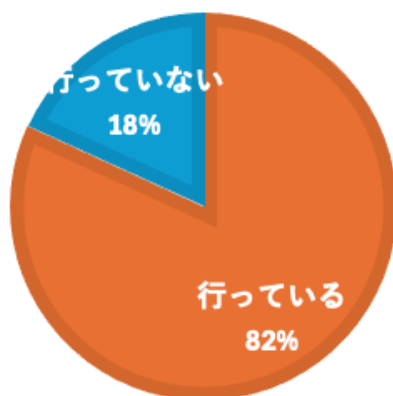


回答数 29件中 行っている:25件、行っていない:4件

大阪府

1. 現在、事業所の活動としてアート活動を行っていますか。

■ 行っている ■ 行っていない

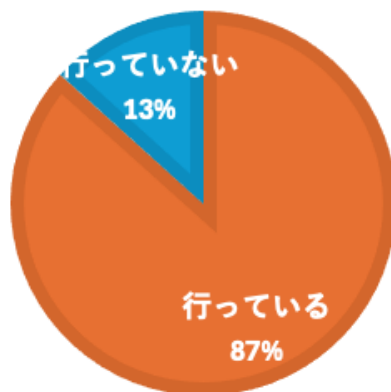


回答数 11件中 行っている:9件、行っていない:2件

京都府

1. 現在、事業所の活動としてアート活動を行っていますか。

■ 行っている ■ 行っていない

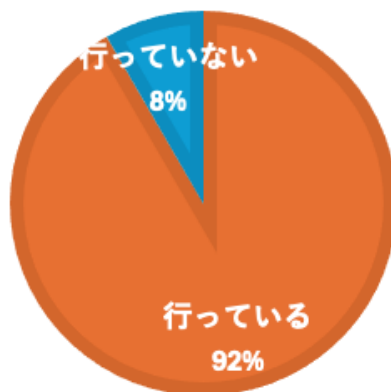


回答数 15件中 行っている:13件、行っていない:2件(うち1件は、以前行っていたが今は行っていない)

和歌山県

1. 現在、事業所の活動としてアート活動を行っていますか。

■ 行っている ■ 行っていない

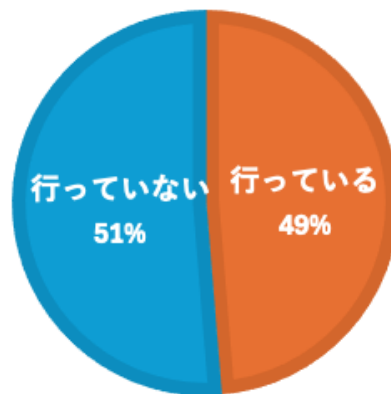


回答数 12件中 行っている:11件、行っていない:1件

兵庫県

1. 現在、事業所の活動としてアート活動を行っていますか。

■ 行っている ■ 行っていない



回答数 156件中 行っている:76件、行っていない:80件(うち11件は、以前行っていたが今は行っていない)

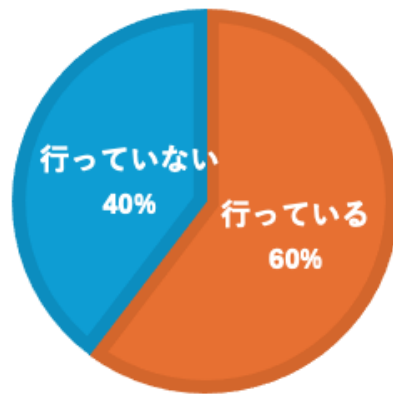
滋賀県

回答数 1件中 行っている:1件

全体(滋賀県も含む)

1. 現在、事業所の活動としてアート活動を行っていますか。

■ 行っている ■ 行っていない



回答数 224件中 行っている:135件 行っていない:89件(うち12件は、以前行っていたが今は行っていない)

以下は、県別のまとめ

奈良県

1_2.アート活動を何年間実施していますか。

奈良県

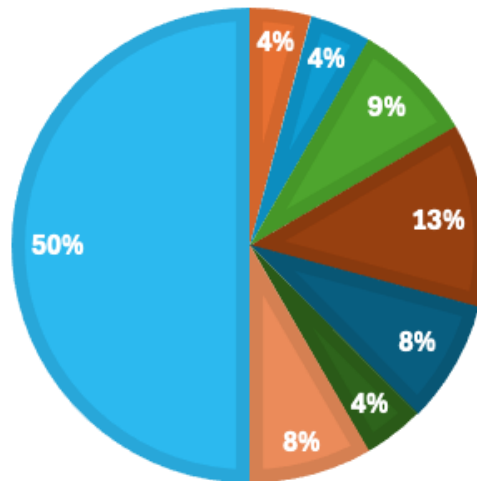
行っている団体 25件中

1年間 1
2年間 1
5年間 2
7年間 3
8年間 2
9年間 1
10年間 2
11年以上 12

* 計24件(行っている団体中、1件は年数についての回答なし)

1_2.アート活動を何年間実施していますか。

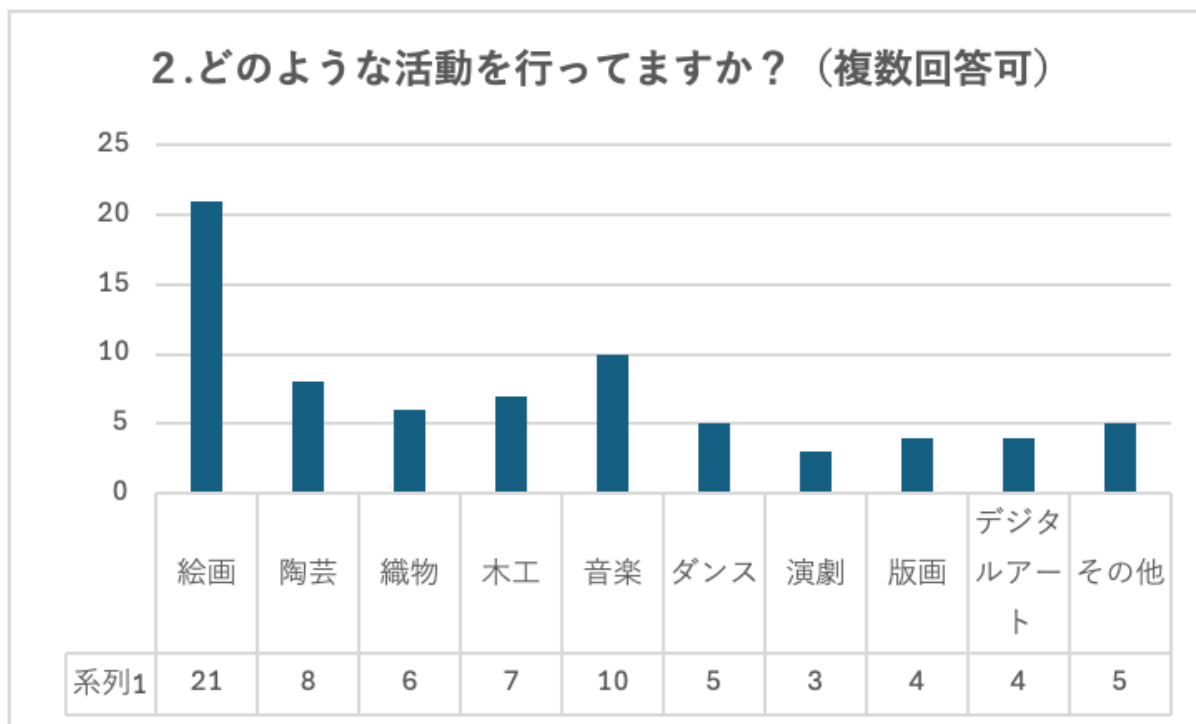
■ 1年間 ■ 2年間 ■ 5年間 ■ 7年間 ■ 8年間 ■ 9年間 ■ 10年間 ■ 11年以上



11年以上の団体が、半数を占めている。

2. どのような活動を行っているか、具体的にご記入ください(複数回答可。
該当するものすべてを選択してください)。

奈良県



行っている団体 25件中

2つ以上の活動を行っている団体が18件と半数以上。

また、活動内容としては「絵画」が最も多く、21件。ついで「音楽」が10件。

「その他」は、1件のみ回答があった活動をまとめたもので、具体的な内容としては、切り絵、靴下はぎれ指編み、チラシのエコバック制作、編み物、壁画など。

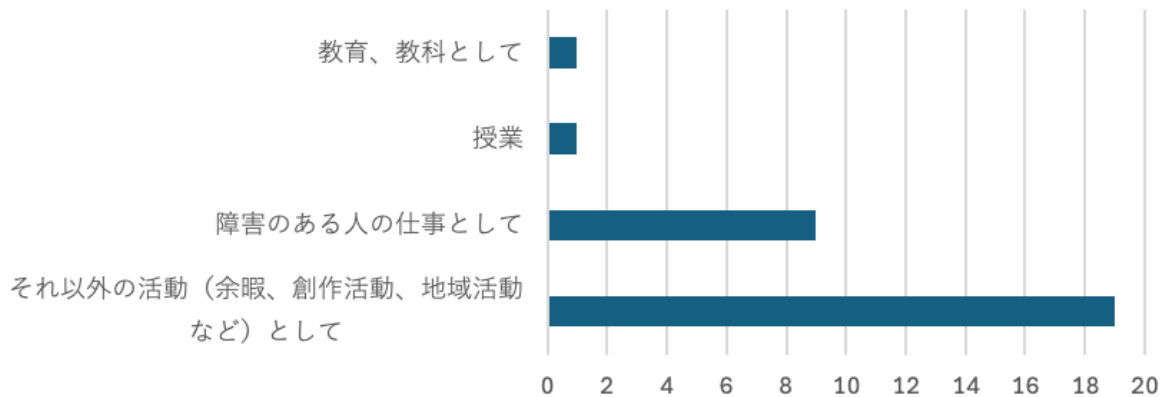
行っている活動の数については、

養護学校が10件、ろう学校が7件と多く、授業・教育・教科およびそれ以外の活動（余暇、創作活動、地域活動など）として、複数の選択肢があることや、多くの時間を使っていることが伺える。

3.アート活動は、次のどちらの活動として行っていますか（複数選択可。あてはまるものをすべて選んでください）。

行っている団体 25件中（未回答1件あり）

3.アート活動は、次のどちらの活動として行っていますか（複数回答可）



	それ以外の活動（余暇、創作活動、地域活動など）として	障害のある人の仕事として	授業	教育、教科として
系列1	19	9	1	1

- ・障害のある人の仕事として 9件
- ・それ以外の活動（余暇、創作活動、地域活動など） 19件（うち、両方と回答した団体 5件）
- ・授業 1件（養護学校）
- ・教育、教科として 1件（ろう学校）

回答団体では、「仕事以外の活動」として取り組まれている団体が多い。

4. アート活動の目的（自己表現の力を高める、コミュニケーションを促す、リハビリテーション等）をお教えてください。

「自己表現を高める、持続性を身に着ける、仲間との協調性や達成感を持ってもらう等」（絵画、音楽）

「工賃を稼ぐ為と自己表現」（絵画）

「作品展、商品として活用雑貨やカレンダー等として販売」（絵画等）

「何事にも興味を持ってもらい コミュニケーションを広げるとともに 得意分野を伸ばす」（絵画等）

「自身に合った活動を行うことで、意識が集中し充実感が得られる。その効果自体が、精神障害による幻聴や妄想から利用者を守ってくれている。」（絵画等）

といった回答があった。

5. 発表の機会

回答の中では、「公募展へ出展した」が最も多かった。他に「個展を開催した」「グループ展へ参加した」という団体もあった。

また「発表したことはない」という団体もあった。

6. 作品を商品化したことはありますか

「商品化したことはない」12件

「自分たちで商品化した」9件

「企業などから依頼を受けて商品化した」1件

(複数回答あり、未回答団体あり)

また、「自分たちで商品化した」団体でも、「作品が販売された場合や、著作権利用された場合(グッズのデザインに作品が使われるなど)には、作者に報酬を支払っているか」には違いがあり、支払っている団体もあれば、支払っていない団体もあった。

課題・難しさ

1. 場所

専用の場所を特に設けていない団体も多い。そのことについて特に問題ややりにくさを感じていない団体がある一方で、

「活動(練習)スペースが狭くなってきている。」(音楽)

「創作活動できるスペースが限られている。」(絵画, 音楽, デジタルアート)

「利用者さんの人数が多く、一人のスペースが狭い。」(絵画, 織物)

「参加人数に応じて部屋を移動しなければいけない。そのたびに制作材料を制作場所に移動させなければいけない。」(絵画, 音楽, ダンス, 工作)

「絵具や画材道具が散乱してしまう。またそれを整理・収納するための棚等は、こういったものがその利用者にマッチするのかわからない。」(絵画等)

といった声も聞かれた。

2. 人材

現在、回答団体の多くでは、スタッフ・職員が、こうした活動にも携わっている。

「スタッフに研修に行ってもらっている(音楽療法等)」(音楽等)

「専門家でないが、職員が曲を作り、歌い録音したオリジナル曲に、自分たちで振り付けし、踊りの指導も担っている。」(ダンス)

そのような状況下で、人材についての課題としては、下記のような回答があった。

「専門的知識のあるスタッフが少ない」(絵画)

「専門的な知識のあるスタッフがいない」(絵画等、2団体)
「専門的な知識のあるスタッフがいない、支援員の手が空かない」(絵画)
「活動に意欲的な人材やアートに興味を持つスタッフが少ない」(絵画等)
「専門的な知識がスタッフにまだまだ足りない。」(絵画等、活動を始めてから1年)
「専門的な知識・的確なアドバイスができるスタッフがいない。」(絵画等)
「放課後等デイの運営に関するQ&Aでは、「外部講師を招聘してよいのか？」という質問に対して「なるべく職員で運営するのが望ましい」という回答がある。アート活動等については、内部に専門的な知識のあるスタッフがいることはなかなか難しく、いかに外部からアーティスト等を招聘するかということは大事かと思うが、こうしたQ&Aが出るのは、どうなのかと感じた。」(絵画、音楽、ダンス)

数としては1団体にとどまるが「美大卒業生が数名いる」と回答した団体もあった。
また「人材育成に取り組みたい」(絵画等)という団体もあった。

もしも団体スタッフ・職員等が専門的な知識を身につけるという意味で、団体が人材育成に取り組むのであれば、そのための適切なプログラムが外部より提供されるのであれば、取り組みやすいだろう(人材育成プログラムを独自に開発するのは難しいだろう)。
一方で、すでにいる団体スタッフ・職員等がさらにこうした活動における専門的な知識を身につけるということは負担が大きくなることも予想される。

3.資金

「年間の活動予算を決めて行っている」(絵画等)
「事業所努力で行っている」(絵画、音楽)
「活動に必要な予算がすべて自前の為、補助があれば申請したい。」(ダンス)
「もっと(資金が)たくさんあればもっと活動出来ることが増える。」(絵画等)
「慢性的に資金不足」(絵画等)
「極力費用がかからないように工夫しています」(絵画)
「画材の消耗がとても早い制作スタイルの方が多く、画材代がかかってしまうので安価な画材ばかりを選んでしまいます。」(絵画)
といった回答があった。

また生活介護事業所では「個人の活動費用に関しては、その利用者負担となっている。」と回答した団体もあった。

資金が十分にあると回答した団体はなく、回答団体の多くが、資金の増額を望んでいるが難しいことがわかる。

4.作品の保存

「特に課題はない。」と回答した団体は1団体にとどまり、

「保管場所がない」(絵画等)

「施設内に保管しているが、限界があります」(絵画)
「作品が日々増えていくので保存場所の確保や整理が必要」(絵画等)
「作品を安全に保存する場所が限られる。」(絵画等)
「保管場所代がかかる(大道具)」(演劇)
といった、主に保管場所に対する課題を抱えている団体が多かった。

「保存している作品が多く、管理が大変」(絵画等)
「保管するも綺麗な状態の保存方法が分からない」(絵画等)
「額装しても、きれいに保管継続できず、劣化、破損してしまう。」(絵画等)
といった、保管方法についての課題も挙げられた。

5.発表の機会

「機会は、地元に着しているもので年に4～5回出演している」(ダンス、7年間継続)
「定期的に公共の会館や施設等をお借りして作品の発表を行っている」(絵画等、11年以上)
「(現在の発表のきかいや頻度を)丁度いいと感じている」(絵画、音楽、10年間)
というように、活動を継続する中で、定期的な発表の機会を得ていたり、ちょうどよい頻度での発表ができている団体があることが伺える。

一方で、下記のような回答もあり、課題を抱えている団体もあることが伺えた。
「なし」(織物、工芸)
「発表したいが準備する時間がない」(絵画、音楽、ダンス、7年間継続)
「作品を発表する機会が少ない」(絵画等、8年間継続)
「利用者によっては、作品を発表・展示会へ出店することが、作品制作の意欲・原動力になっているようであるが、それら発表・展示会の機会が少なく年に3～4回ほどである。」(絵画等)

6.利用者の高齢化や障害の重度化

「高齢化など意欲低下の方へのサポートが難しく感じている。」(絵画、音楽、10年間)
「高齢化により利用者様の歩行が困難となり、サポートする人数も少ない為、断念される方もおられ、心苦しく思っている。」(ダンス、7年間)
「メンバーの加齢や障害の重度化によって演奏が難しくなっている方がいる。」(音楽、11年間)
といった回答があった。
活動内容に関わらず、高齢化や障害の重度化が活動参加への障壁となっていることが伺える。

一方で

「創作活動において、年齢や障がいの重さなどはあまり気にはならず、むしろ作品の深みが増していく方もおられます。」(絵画等、11年以上)
という回答もあり、参加がなかった場合の可能性も感じられる。

7.情報

「(課題は)特になし」「特に問題ない。」と回答する団体がある一方で、
「必要な情報がない。」「情報が少ない」「障害のある人のアート活動に関する情報が少ない。」と回答する団体もあった。

情報にアクセスできているかに違いがある可能性も伺える。

8.その他

下記のような回答があった。

「創作活動の支援よりも、日常生活のサポートに時間を費やすことが多く、充実した搜索、作品の完成させ世に出すところまでなかなか持っていくことが出来ないでいます。」(絵画等、11年間)

大阪府

1_2.アート活動を何年間実施していますか。

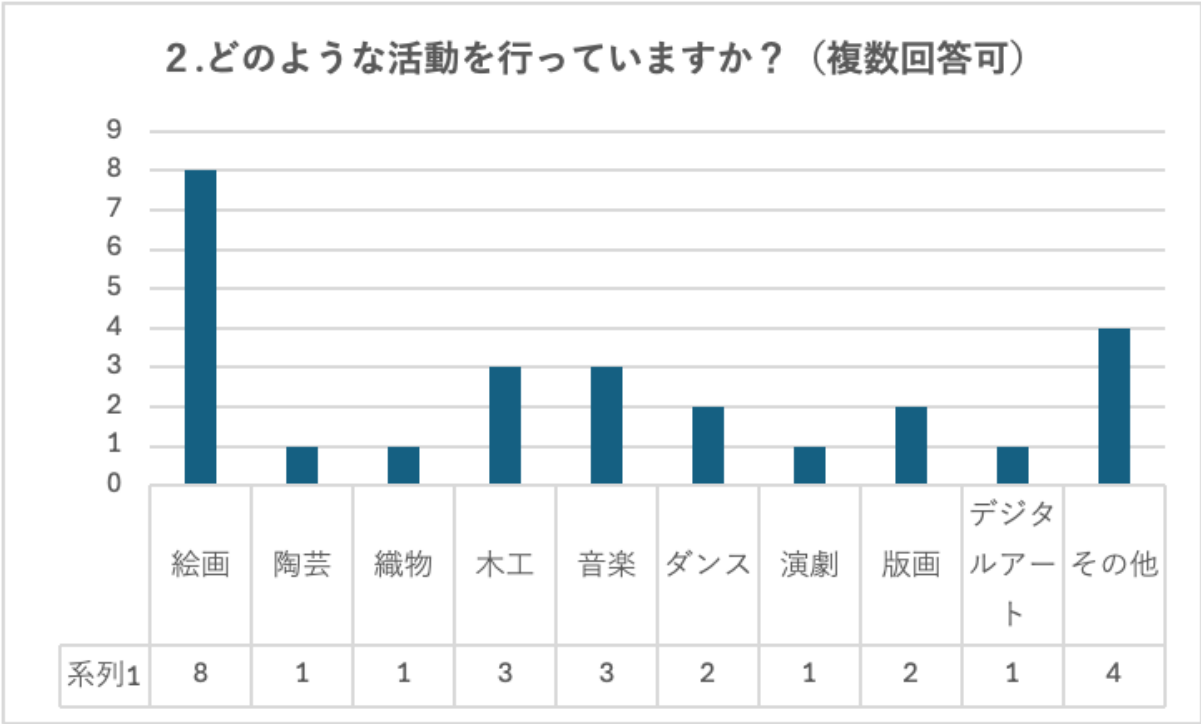
行っている団体 9件中

1年間 1
3年間 1
7年間 1
8年間 1
10年間 1
11年以上 4
* 計9件

11年以上の団体が半数近い。

2. どのような活動を行っているか、具体的にご記入ください(複数回答可。
該当するものすべてを選択してください)。

大阪府



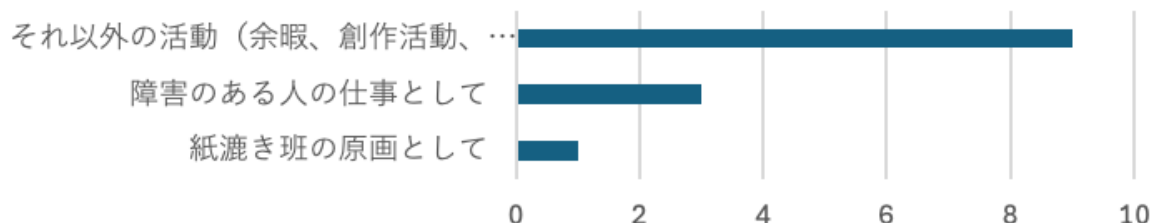
行っている団体 9件中
2つ以上の活動を行っている団体が7件と半数以上。
また、活動内容としては「絵画」が最も多く、8件。ついで「音楽」が3件。
（奈良県と同じ順）

「その他」は、1件のみ回答があった活動をまとめたもので、具体的な内容としては、立体作品、ビーズアート、刺繍・ペーパークラフト、粘土を使った創作など。

3.アート活動は、次のどちらの活動として行っていますか（複数選択可。あてはまるものをすべて選んでください）。

行っている団体 9件中

3. アート活動は、次のどちらの活動として 行っていますか（複数選択可）



	紙漉き班の原画として	障害のある人の仕事として	それ以外の活動（余暇、創作活動、地域活動など）として
系列1	1	3	9

- ・障害のある人の仕事として 3件
- ・それ以外の活動（余暇、創作活動、地域活動など） 9件
（うち、両方と回答した団体 3件 ）
- ・紙漉き班の原画として 1件

回答団体では、「仕事以外の活動」として取り組まれている団体が多い。

4. アート活動の目的（自己表現の力を高める、コミュニケーションを促す、リハビリテーション等）をお教えてください。

「重度な障害を持つ子どもと保護者が創作活動を楽しめる場所が少ないので運営しています。」（絵画、木工）

「一人ひとりがクリエイティブな仕事に就くため。生涯学習とライフワークとして。」（絵画、版画、立体作品）

「自己表現を高める・地域交流を図る」（絵画、音楽、ダンス）

「身体の使い方、コミュニケーションとしての場所づくり」（ダンス）

「自己表現力を高める、コミュニケーションを促す、自己肯定感を育む、など」（絵画等）

「自己表現でもあり、コミュニケーションツールでもあり、精神の安定をはかるものとしても。」（絵画等）

といった回答があった。

5. 発表の機会

回答の中では、「公募展へ出展した」が最も多かった。他に「個展を開催した」「グループ展へ参加した」という団体もあった。

また「発表したことはない」という団体も2団体あった。

6. 作品を商品化したことはありますか

「商品化したことはない」4件

「自分たちで商品化した」3件

「企業などから依頼を受けて商品化した」1件

(複数回答あり)

また、「自分たちで商品化した」団体でも、「作品が販売された場合や、著作権利用された場合(グッズのデザインに作品が使われるなど)には、作者に報酬を支払っているか」には違いがあり、支払っている団体もあれば、支払っていない団体もあった。

課題・難しさ

1.場所

「スペースの確保が難しい」(絵画、音楽、ダンス)

「もっと広いスペースが望ましい」(絵画等)

「スペースがもう少しあれば、とは思います」(絵画等)

という、広さに課題を感じる団体が多いが、

なかには「施設内をアトスペースに適した環境に改善した」(絵画)という団体も1件あった。

2.人材

少人数の特定の職員が中心になって取り組んでいるという団体は、回答団体においては少なく(1団体)人材における課題をあげる団体は多い。

以下のような声があった。

「興味を待ってくれる人材が少ない」(絵画、木工)

「専門的な知識のある方が少ない」(絵画、音楽等)

「専門的な知識のあるスタッフをより増やしたい。」(絵画等)

「福祉事業自体の職員不足の方が問題」(絵画等)

「日常業務が忙しくて、時間がかけられない」(絵画、音楽、ダンス)

知識不足、人員不足、時間不足などが指摘されている。

3.資金

「節約しながらなので現状回っている」(絵画、木工)

「なんとかやりくりしている」(絵画等)

「わずかだがやりくりしている」(絵画)

「現在は実費の負担と法人負担で賄っていますが、他から予算が取れるに越したことはない」(絵画等)
「専用スペースなど補助金の様な形でも良いので資金を得たい」(絵画とう)
といった回答があった。

資金が十分にあると回答した団体はなく、回答団体の多くが、「なんとかやりくりをしている」余裕がない状況であり、外部からの資金を望んでいる団体もあることが伺える。

4.作品の保存

「特に問題ない」と回答した団体は1団体のみで、
「保存場所が狭い」(絵画等)
「方法や手段などがわからない」(絵画等)
といった、課題があがった。また、こうした課題をあげた団体には10年以上活動している団体もあり、活動が長くとも、こうした課題を解決できていないこと、絵画作品の保存場所がないという問題は、活動年数が長くなるにつれ起こることもあるかもしれないことが伺える。

5.発表の機会

「特に問題ない」と回答した団体は1団体のみで、
「発表に避ける人員が少ない」(絵画等、11年以上)
「発表の場が少ない」(ダンス、11年以上)
「展覧会などの機会を得たい」(絵画等、10年間)
といった課題があげられた

6.利用者の高齢化や障害の重度化

「まだ問題ない」(絵画等、11年以上)とする団体がある一方で、
「サポートもそうですが、作品数が少なくなっている、意欲が減退している(働きかけが少なくなっている)」(絵画等、10年間)という団体もあった。

7.情報

「特に問題ない」と回答する団体がある一方で、
「情報が少ない」「障害のある人のアート活動に関する情報が少ない」「必要な情報がない」と回答する団体もあった。

8.その他

下記のような回答があった。
「他事業所とも協働する機会が少ない」(絵画等、10年間)

京都府

1_2.アート活動を何年間実施していますか。

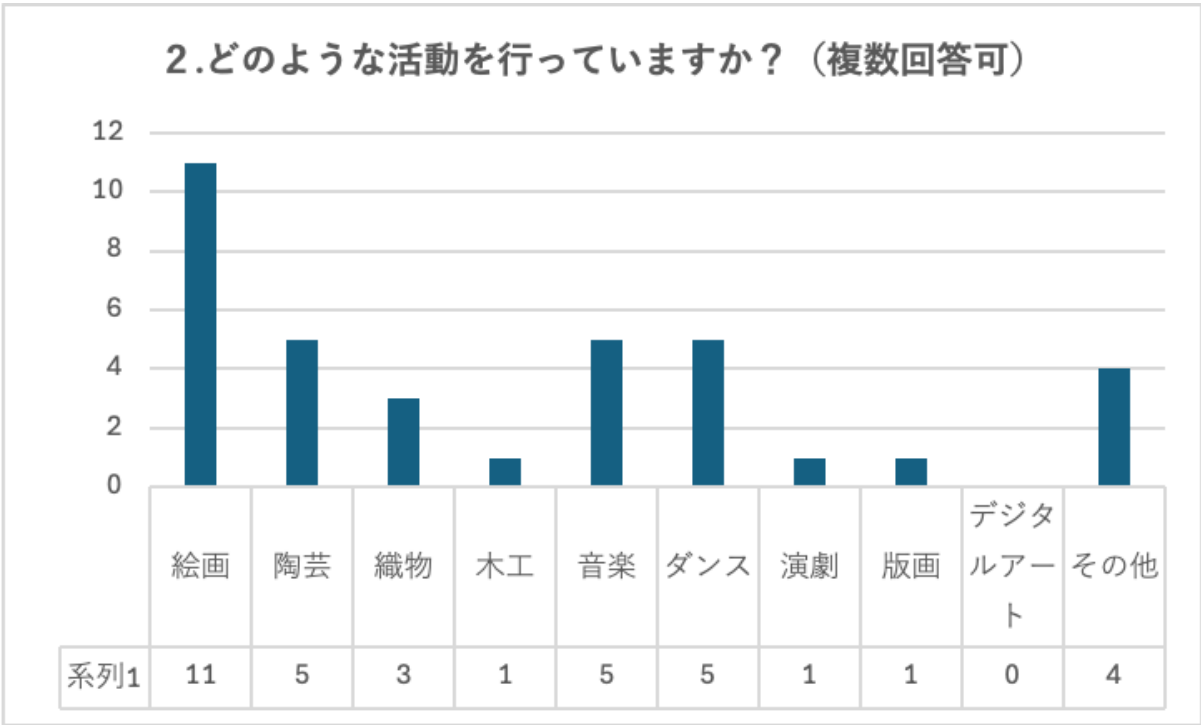
行っている団体13件中

3年間 1
4年間 1
11年以上 11
* 計13件

11年以上の団体がほとんど。

2. どのような活動を行っているか、具体的にご記入ください(複数回答可。
該当するものすべてを選択してください)。

京都府



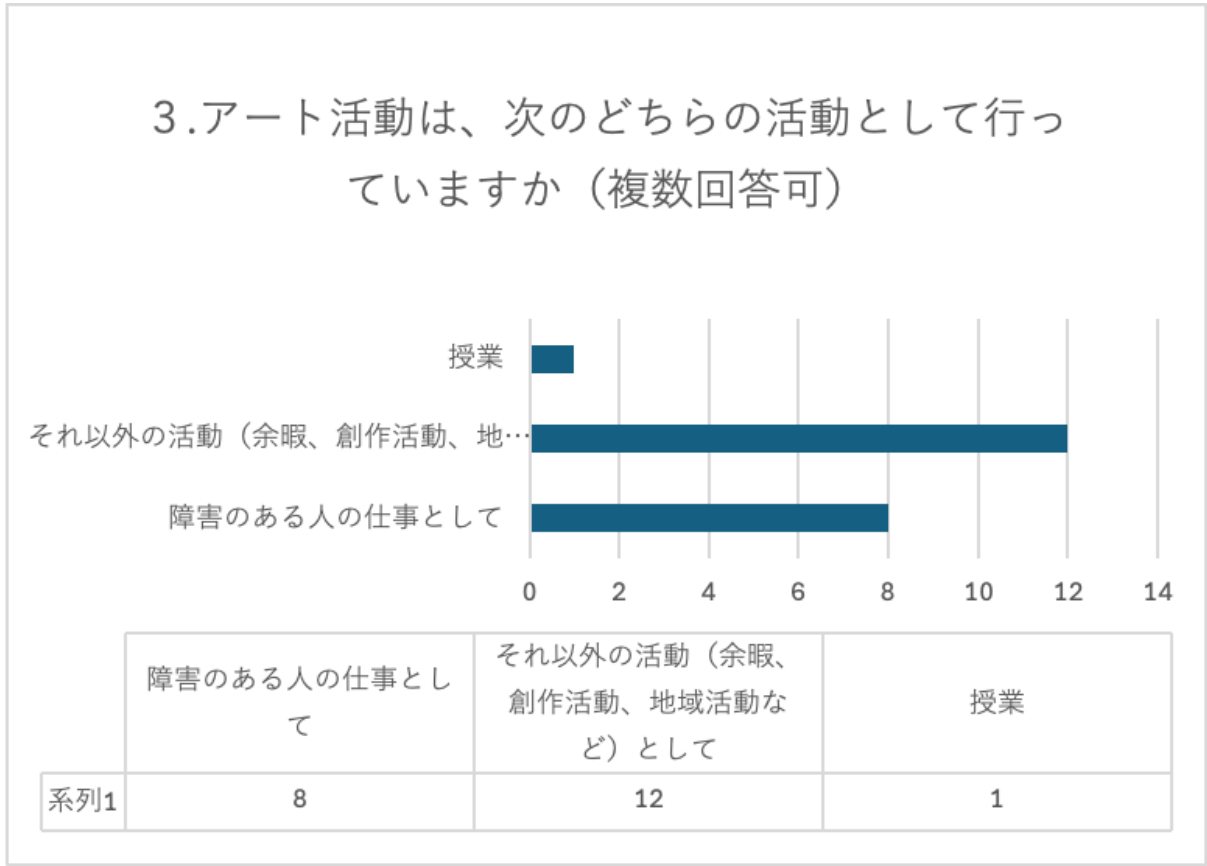
行っている団体 13件中

2つ以上の活動を行っている団体が10件と半数以上。
また、活動内容としては「絵画」が最も多く、11件。ついで「陶芸」「音楽」「ダンス」が5件。

「その他」は、1件のみ回答があった活動をまとめたもので、具体的な内容としては、太鼓、生け花、茶道、対話鑑賞など。

3.アート活動は、次のどちらの活動として行っていますか（複数選択可。あてはまるものをすべて選んでください）。

行っている団体 13件中



- ・障害のある人の仕事として 8件
- ・それ以外の活動（余暇、創作活動、地域活動など） 12件
（うち、両方と回答した団体 6件 ）
- ・授業 1件（支援学校）

回答団体では、「仕事以外の活動」として取り組まれている団体が多い。

4. アート活動の目的(自己表現の力を高める、コミュニケーションを促す、リハビリテーション等)をお教えてください。

「個々の得意を活かせるように」(絵画等)

「絵画を通じて自分の楽しみを見つけて、いろいろな方に出会える場所として」(絵画)

「自己表現の機会を設けることで、自己表出の力を高めてもらう」(絵画、陶芸)

「自己表現の力を高めるため、仕事の合間のリフレッシュのため」(絵画)

「障害のある人／障害のない人への創作・鑑賞の場の提供、地域の人々が気軽に美術館賞できる機会の提供」(対話鑑賞)

といった回答があった。

5. 発表の機会

回答の中では、「公募展へ出展した」が最も多かった。ついで「グループ展へ参加した」「個展を開催した」という順だった。

また「公募展へ出展した」「グループ展へ参加した」「個展を開催した」全てを行っている団体も4団体あった。

他に「祭りや市の啓発活動」「地域のまつり、ライオンズクラブ主催の音楽会」「校内のギャラリースペースでの展示」「ご家族に向けた内部展示」という団体もあった。

6. 作品を商品化したことはありますか

「商品化したことはない」4件

「自分たちで商品化した」7件

「企業などから依頼を受けて商品化した」3件

(複数回答あり)

また、「自分たちで商品化した」団体でも、「作品が販売された場合や、著作権利用された場合(グッズのデザインに作品が使われるなど)には、作者に報酬を支払っているか」には違いがあり、支払っている団体もあれば、支払っていない団体もあった。

課題・難しさ

1. 場所

「活動できるスペースが限られている(紙器組立作業との兼用)」(絵画等)

「活動できるスペースが限られている、下請けの生産活動との兼ね合い・調整が必要」(絵画、陶芸)

「アート活動として活動する場所がない。」(絵画等)

といった回答があり、広さに課題を感じている団体があることが伺える。

2.人材

「ほぼいない」(陶芸、ダンス等)

「アートについての専門的な知識、販売などの作品展開についての知識があるスタッフがいらない」(絵画等)

「スタッフ個人の裁量の作業の部分もあり、今後、発展的な活動を続けていけるのかが課題」(絵画等)

「専門的な知識のあるスタッフがいらない」(絵画、陶芸)

「スタッフの知識はありませんが、専門の方とつながればフォローできます。支援スタッフの人数確保が大変です。」(絵画、音楽、ダンス)

「専門的知識があるスタッフがいらない。アーティストの方との接点がない。」(絵画等)

知識不足、人員不足、団体外との接点の不足などが指摘されている。

スタッフの属人性の高さを課題として指摘する声もあった。

3.資金

「現在の活動においては充足している」(絵画等)と回答した団体は1団体にとどまり、

「活動に必要な予算が十分ではない」(絵画、陶芸)

「活動に必要な予算がない。大々的にしたくても、会場費等多額の資金が必要です」(絵画、音楽、ダンス)

「活動に必要な予算がない」(絵画、音楽等)

といった回答があった。

4.作品の保存

「作品を保管する場所がない」(絵画等)

「保存場所が無く、雑多に重ねて保管している状態」(絵画、陶芸等)

という、保存場所の広さについての課題が上がった。

また、活動期間が長い団体からは以下のような課題も上がった。

「保存数が増えていくので今後どうしていけばよいか検討中」(絵画等、11年以上)

「新たな保存場所をそろそろ考えないといけない」(絵画、11年以上)

保存方法についても

「正しい保存方法が分からないので単に置いている、場所に限りがある」(絵画、陶芸)

という声があった。

また「作品は作者本人の著作物ということで返却しているが、自宅ではどうしても散逸しやすい」(絵画等)という回答もあり、本人への返却が必ずしも保存管理につながっていない状況も垣間見える。

5.発表の機会

「コロナ以降少ない」(ダンス等)

「とっておきの芸術祭以外の発表の場がない。利用者のモチベーション維持が難しい」(絵画等)

「発表機会が少ない。遠方の作品展の場合、送料がかかる」(絵画、陶芸等)
といった課題があげられた

6.利用者の高齢化や障害の重度化

「とくに課題を感じていない」(絵画等、3年間)とする団体がある一方で、

「創作を継続するためのサポートが難しい」(絵画、陶芸、11年以上)

今まで出来ていたことが難しくなり、創作活動継続の意欲が減少していく。また、サポートする道具などがない」(絵画、陶芸等、11年以上)

「利用者の高齢化、障害の重度化により、将来的に活動を継続するのが困難だと感じている。」(絵画、11年以上)

という回答もあり、特に活動期間が長い団体から、懸念が表明された。

7.情報

「全くと言ってない」「本人自身や支援者が情報を得てこない限り、情報が入ってこない。」

「視覚障害のある人に情報を届けにくい」「同様の活動を行っている事業所の情報を知りたい」といった回答があった。

8.その他

下記のような回答があった。

「(活動場所が2階だが)2階へのルートが階段しかない、トイレが1箇所しかない、車椅子対応に限界がある」(絵画等、4年間)

和歌山県

1_2.アート活動を何年間実施していますか。

行っている団体11件中

1年間 1

2年間 1

5年間 1

8年間 2

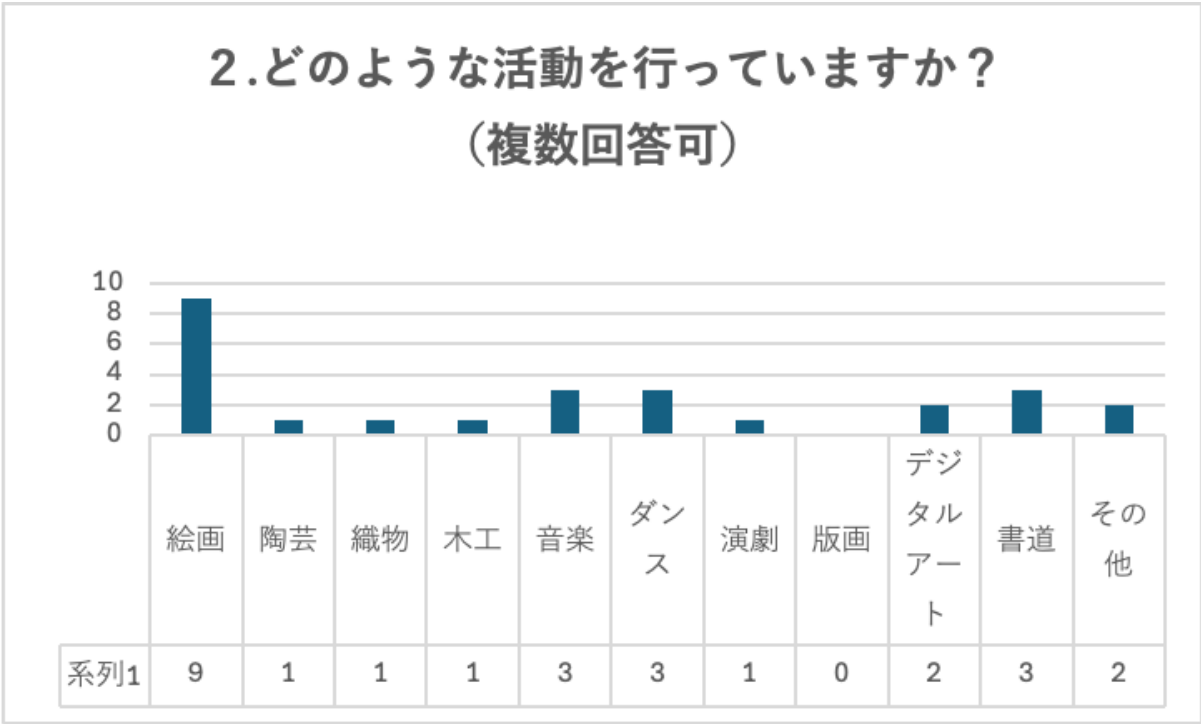
9年間 1

11年以上 2

* 計8件(未回答3件)

2. どのような活動を行っているか、具体的にご記入ください(複数回答可。
該当するものすべてを選択してください)。

和歌山県

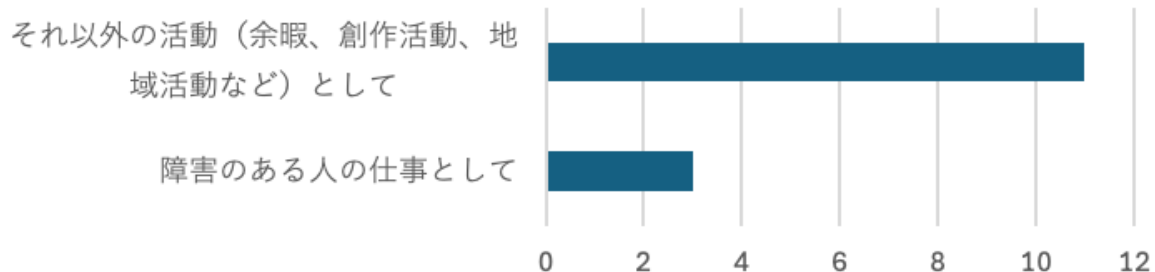


行っている団体 11件中
2つ以上の活動を行っている団体が9件と半数以上。
また、活動内容としては「絵画」が最も多く、9件。ついで「音楽」「ダンス」「書道」が3件。
特に「書道」については、奈良県や大阪府、京都府では出ていない回答である。

「その他」は、1件のみ回答があった活動をまとめたもので、具体的な内容としては、だるま作り、創作物など。

3.アート活動は、次のどちらの活動として行っていますか(複数選択可。あてはまるものをすべて選んでください)。

3.アート活動は、次のどちらの活動として 行っていますか（複数選択可）



	障害のある人の仕事として	それ以外の活動（余暇、創作活動、地域活動など）として
系列1	3	11

行っている団体 11件中

- ・障害のある人の仕事として 3件
- ・それ以外の活動（余暇、創作活動、地域活動など） 11件
（うち、両方と回答した団体 3件 ）

回答団体のうち全てで「仕事以外の活動」としての取り組みがあった（さらに仕事として取り組んでいる団体もあり）。

4. アート活動の目的（自己表現の力を高める、コミュニケーションを促す、リハビリテーション等）をお教えてください。

「ストレス発散、向上工賃」（絵画、だるま作り等）

「障害のある方の得意分野を高めたり、自己表現を高めています」（絵画、デジタルアート）

「リハビリテーション・コミュニケーション」（絵画、ダンス）

「事業所での仕事以外の活動の広がり、多彩な経験を積むことを目的としている。」（絵画、ダンス）

「個々の可能性を広げる、社会参加、リハビリ、個々の自信や達成感など」（絵画）

「潤いや楽しみのある過ごし方の一つ」（絵画）

「自己表現の力を高める、コミュニケーションを促す、リハビリテーション等」（陶芸、音楽等）

「自己表現、リハビリ、趣味、コミュニケーション」（書道等）

「自己表現力の発掘、自由に創作活動できる場を提供して各人の才能を引き出す。」（絵画、書道アート）

「自己表現力」（絵画等）

といった回答があった。

5. 発表の機会

回答の中では、「公募展へ出展した」が最も多かった。ついで「グループ展へ参加した」「個展を開催した」という順だった。

また「公募展へ出展した」「グループ展へ参加した」「個展を開催した」全てを行っている団体も3団体あった。

他に「フェスやイベントに参加(チンドンパフォーマンス)」「地域 ふれあい文化祭(障害者、保育、高齢者)」「地域の作品展示会に出展」という団体もあった。

6. 作品を商品化したことはありますか

「商品化したことはない」5件

「自分たちで商品化した」3件

「ポストカード」2件

「法人のカレンダー」1件

(複数回答あり)

また、「自分たちで商品化した」団体でも、「作品が販売された場合や、著作権利用された場合(グッズのデザインに作品が使われるなど)には、作者に報酬を支払っているか」には違いがあり、支払っている団体もあれば、支払っていない団体もあった。

課題・難しさ

1. 場所

「施設作業場(で活動している)」「(絵画、デジタルアート)

「練習場所や劇場を持ちたい。ギャラリーを持ちたい」(絵画、だるま作り等)という2件の回答にとどまり、具体的な課題はわからなかった。

2. 人材

「専門的なスタッフはいない」(絵画、デジタルアート)

「色々な創作活動に取り組みたいが近隣に講師等なかなか見つからないのが現状」(絵画、ダンス)

という回答があった。

3. 資金

資金が十分であると回答した団体はなく、

「活動予算はつけていない」(絵画、デジタルアート)

「限られた予算内で活動している。」(絵画、ダンス)

「活動に必要な資金を助成金などでもらえたらありがたい。」(絵画、だるま作り等)

「公的な助成がない。」(絵画、書道アート)という回答があった。

4.作品の保存

回答3件で、以下の結果だった。

「増えてきた時の事を考えておく必要がある。」(絵画、だるま作り等)

「施設で展示している」(絵画、デジタルアート)

「保存スペースがなく困っている。」(絵画、書道アート)

5.発表の機会

「自ら発表する場を開拓すると同時に色々な場所からお声がかかればありがたい。」(絵画、だるま作り等)

「今後もアート展に出展はしていく」(絵画、デジタルアート)

といった声や、

「発表する機会が少ない」(絵画)

「常設展示出来る場がない」(絵画、書道アート)

といった課題があがった。

6.利用者の高齢化や障害の重度化

回答は1件のみ。

「その人に合った創作や作業を考えていく必要がある。」(絵画、だるま作り等)

7.情報

下記のような回答があった。

「情報源の把握等あまり出来ていない」(絵画、ダンス)

「もっと欲しい」(絵画)

8.その他

下記のような回答があった。

「障がいアートを活用して障がい者が生活できるような販売などの支援やネットワークを支援頂きたい」(絵画)

兵庫県

1_2.アート活動を何年間実施していますか。

行っている団体76件中

1年間 9

2年間 6

3年間 7

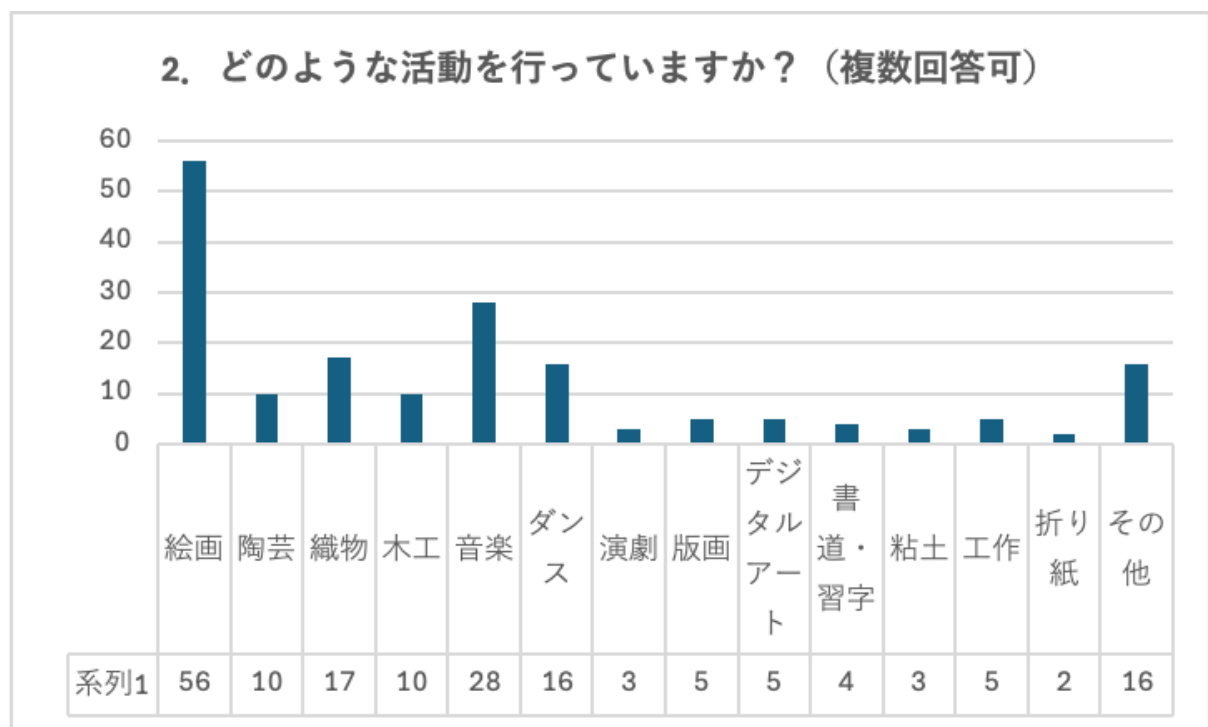
4年間 4

5年間 4
 6年間 5
 7年間 0
 8年間 6
 9年間 1
 10年間 3
 11年以上 28
 * 計73件(未回答あり)

11年以上の団体が3分の1程度。

2. どのような活動を行っているか、具体的にご記入ください(複数回答可。
 該当するものすべてを選択してください)。

兵庫県



行っている団体 76件中

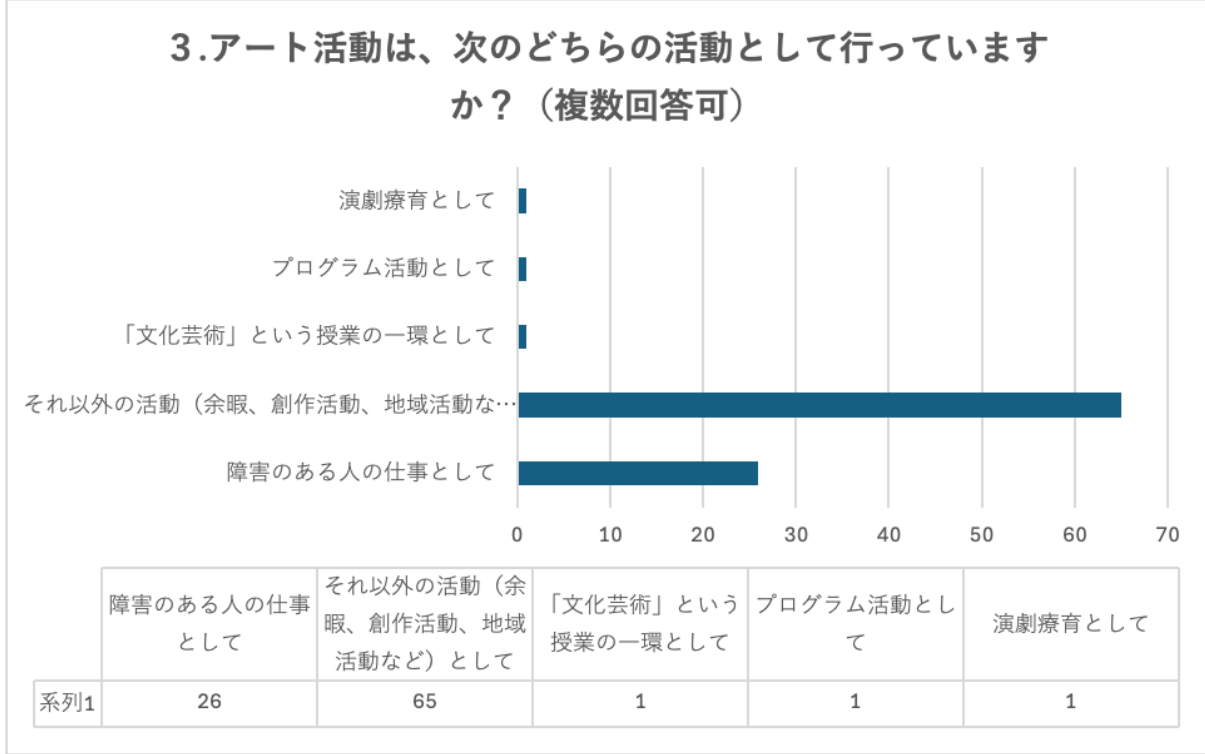
2つ以上の活動を行っている団体が48件と半数以上。

また、活動内容としては「絵画」が最も多く、56件。ついで「音楽」28件、「織物」17件。

「その他」は、1件のみ回答があった活動をまとめたもので、具体的な内容としては、貼り絵、切り絵、刺し子、手芸、写真など。

3.アート活動は、次のどちらの活動として行っていますか（複数選択可。あてはまるものをすべて選んでください）。

行っている団体 76件中



- ・障害のある人の仕事として 26件
- ・それ以外の活動（余暇、創作活動、地域活動など） 65件
（うち、両方と回答した団体 17件 ）
- ・「文化芸術」という授業の一環として 1件 （自立訓練（生活訓練））
- ・プログラム活動として1件
- ・演劇療育として1件

回答団体では、「仕事以外の活動」として取り組まれている団体が多い。

4. アート活動の目的（自己表現の力を高める、コミュニケーションを促す、リハビリテーション等）をお教えてください。

「仕事以外の活動での本人の力を見つける」（絵画、陶芸、ミュージカル、書道）
「音楽療法を通して発語や感情表現を促したり、他者とのコミュニケーション力UP」（音楽等）

「自己表現の力を高める」(絵画、音楽等)

などといった回答があった。

全体に「自己表現力を高める」「コミュニケーション力を高める」「社会参加」といった目的をあげる団体が多かった。

また「日中活動を有意義に過ごしていただく余暇の時間」(書道)といったように、余暇の充実を目的としてあげる団体も複数あった。

5. 発表の機会

回答の中では、発表したことがある団体では「公募展へ出展した」が最も多かった。ついで「グループ展へ参加した」「個展を開催した」という順だった。

また「公募展へ出展した」「グループ展へ参加した」「個展を開催した」全てを行っている団体も5団体あった。

他に「学校行事の文化祭での展示」「年1回施設内で作品展を開催している」「事業所内において近隣地域へ向けた作品展示会を開催した。」「主催の演奏会(を開催している)」という団体もあった。

6. 作品を商品化したことはありますか

「商品化したことはない」37件

「自分たちで商品化した」30件

「企業などから依頼を受けて商品化した」4件

(複数回答あり)

他に「障がい福祉サービス事業所が運営する店舗への作品貸し出しのみ実施している。」という団体もあった。

また、「自分たちで商品化した」団体でも、「作品が販売された場合や、著作権利用された場合(グッズのデザインに作品が使われるなど)には、作者に報酬を支払っているか」には違いがあり、支払っている団体もあれば、支払っていない団体もあった。

課題・難しさ

1. 場所

「特に不自由していない」という団体がある一方で

「十分なスペースがない」「活動を行うスペースが狭い」「活動できる場所の制約」「限られたスペースしかないため、継続的な活動・状態を維持することは困難」など、広さについての課題を挙げた団体は20団体以上にのぼった。

また「利用者一人一人の持っておられる障害の特性に応じて、共有スペースで過ごして頂くための対応を考える必要がある」という声もあった。

2.人材

「特に問題なし」(絵画, 木工, ダンス, 演劇)と回答した団体もあったが、

多くの団体は、下記のような課題をあげた

「専門的な指導者の不足」(織物, 木工, 音楽, ダンス)「専門的人材不足、人手が足りない」

(絵画, 織物, 音楽, ダンス)「専門的な知識のあるスタッフがいない」(絵画, 織物)「専門的

な人材を確保する余裕がない。」(工作等)

「得意な職員が不在になると取り組みが進みにくくなる」(絵画, 織物)、「美術指導ができる職員が1名のみであり、制作などに関われる時間が少ない。」(絵画, 立体)

また、

「作品をデータ化するスタッフ、デザインができるスタッフがいない」(絵画等)という課題を挙げた団体もあった。

3.資金

「予算が少ない」(絵画, 織物, 音楽, ダンス)

「予算が少なく新しい取り組みができにくい」(絵画、音楽)

「活動に必要な予算がない」(絵画、版画等)

「活動に充てる十分な予算がない。(材料も人材も)」(工作等)

といった資金不足に関する課題をあげる団体が多かった。

一方で

「十分にあるわけではないが、活動できないほどではない」(音楽)

「お金がかかるような活動は行っていない(事業所の備品で事足りている)」(絵画、音楽)

と回答した団体もあった。

「絵画活動では、潤沢ではありませんが、決められた予算の中でやりくりしています。」(絵画等)

「廃棄する予定のものを利用している」(絵画, 手芸)

といった回答もあった。

4.作品の保存

課題は「特にない」「特に問題と感じていない」(絵画等)とする団体もあるが、

「保存する方法がわからない」(切り絵等)、「保存方法がよくわからない」(絵画)、「適切な

保存方法ができていない」(絵画等)

「保存場所がない」(絵画)「保存場所の確保が必要」(絵画等)

といった回答があり、保存方法や保存場所についての課題をあげる団体が多かった。

「本人も持ち帰りまでを希望していないため、廃棄することも時々ある」(絵画)という団体もあった。

5.発表の機会

「特に問題なし」(絵画, 木工, ダンス, 演劇)「発表する機会には恵まれている。」(絵画、音

楽)「利用者の利用時間・事業所の取り組み等を考えると、これぐらいでよい。」(絵画等)と

いう団体がある一方、

「手が回らない」(絵画、ダンス等)

「車椅子利用の子どもや、医療ケアのある子どももいるので行ける場所も限られている」
(音楽)

「発表する機会が少ない」(絵画、音楽)「発表する機会が少ないのと、ハードルが高い」(絵画、音楽)

といった課題をあげる団体もあった。

6.利用者の高齢化や障害の重度化

「特にいまのところは感じていない」(絵画、音楽)という団体もあるが、

「重度化により創作ができる時間が介護に割かれ、環境の整備が必要」(絵画等)

「多様な方を一気に受け入れている状態(年齢・障害種別・必要な配慮)。創作的な活動にとどまらず、生活介護としてのニーズ(機能維持・身体介助・家族支援...)が広がっている。」(絵画、陶芸、織物、木工、版画、11年以上)

「創作することが難しくなっている(老眼で細かい作業が難しい)」(絵画等、11年以上)

「高齢化しています、その日の体調を見ながら、活動できる範囲で創作のサポートを継続しています。」(絵画等、11年以上)

といった回答の団体もあった。

7.情報

「情報が少ない」「どこで情報を入手したらよいかわからない」「障害のある人のアート活動に関する情報を得る方法が少ない」といった回答があった。

8.その他

下記のような回答があった。

「アート活動に要する時間が多く取れない」(絵画等、8年間)

「発表や商品化にかかる時間がない。」(絵画等、11年以上)

「絵画の作品数は多いが情報発信の方法が難しい」(絵画、11年以上)

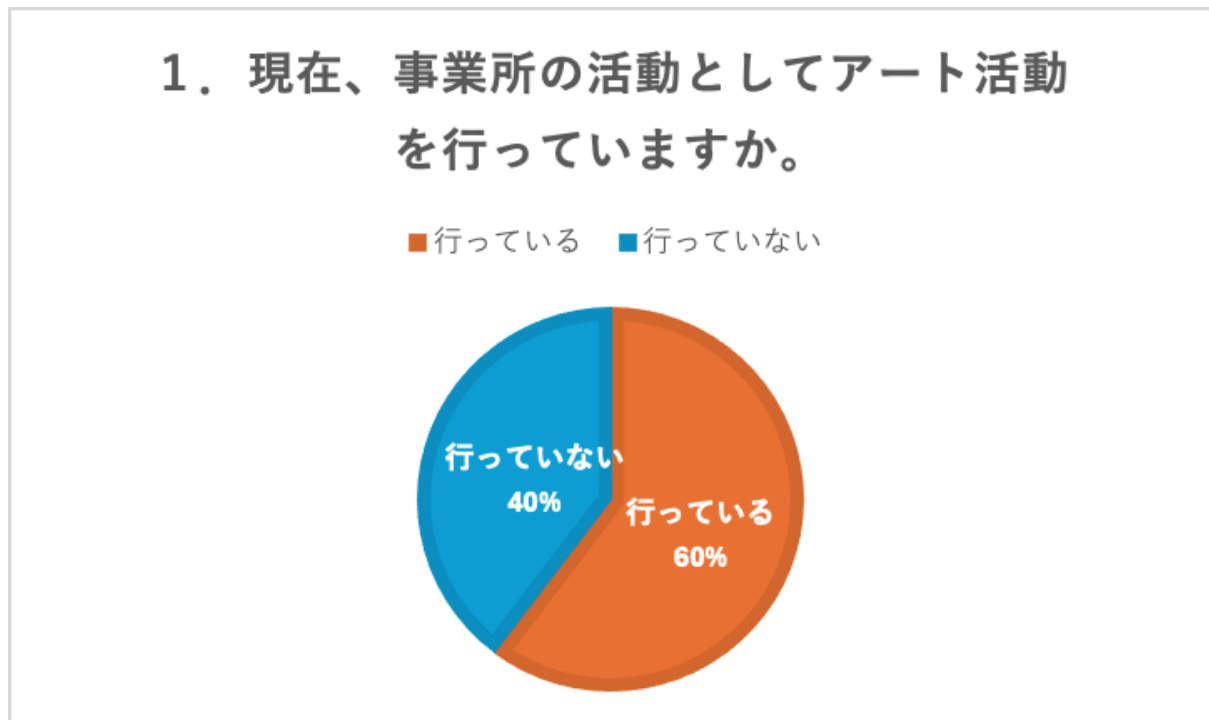
全体

1. 現在、事業所の活動としてアート活動を行っていますか。

奈良県、大阪府、京都府、和歌山県において「行っている」団体の方が多く、「行っていない」団体の方が多かったのは滋賀県のみだった。しかしこれは、そもそも今回のアンケート調査について「行っている」団体が積極的に協力・回答している可能性があるため、この結果によってそのまま「行っている」団体が多いとは言えないと考える。

アンケートの回答数が増加すれば、「行っていない」と回答する団体も増えるかもしれない。

全体(滋賀県も含む)(再掲)



回答数 224件中 行っている:135件 行っていない:89件(うち12件は、以前行っていたが今は行っていない)

1_2.アート活動を何年間実施していますか。

奈良県、大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県において「11年以上」の団体の方が最も多く、和歌山県においても「11年以上」と「8年間」の団体が最も多かった。

しかしこれは、1の設問と同様、そもそも今回のアンケート調査について「長く活動を行っている」団体が積極的に協力・回答している可能性があるため、この結果によってそのまま全ての府県で「11年以上活動を行っている」団体が多いとは言えないと考える。
アンケートの回答数が増加すれば、また違った結果になるかもしれない。

ただ、今回の調査により、長く活動をしている団体の回答は多く得られたと言えるだろう。

2. どのような活動を行っているか、具体的にご記入ください(複数回答可。該当するものすべてを選択してください)。

今回調査した全ての府県において「絵画」が最も多かった。

また、複数の活動に取り組む団体も多かった。

3. アート活動は、次のどちらの活動として行っていますか(複数選択可。あてはまるものをすべて選んでください)。

回答団体では、「仕事以外の活動」として取り組まれている団体が多い。

4. アート活動の目的(自己表現の力を高める、コミュニケーションを促す、リハビリテーション等)をお教えてください。

「自己表現力を高める」「コミュニケーション力を高める」「社会参加」といった目的をあげる団体が多かった。

「リハビリ」「余暇の充実」を目的としてあげる団体も複数あった。

また「精神安定」と回答した団体もあった。

5. 発表の機会

今回の回答からは「公募展へ出展すること」が最もハードルが低く、得やすい発表の機会ということが伺える。

展示を主催する団体がないわけでないが、やはり発表準備の時間や手間が割けないことを課題としてあげる団体もあった。

6. 作品を商品化したことはありますか

「自分たちで商品化した」ことがある団体も多かった。

また、「自分たちで商品化した」団体でも、「作品が販売された場合や、著作権利用された場合(グッズのデザインに作品が使われるなど)には、作者に報酬を支払っているか」には違いがあり、支払っている団体もあれば、支払っていない団体もあった。

課題・難しさ

1. 場所

「特に不自由していない」という団体もあったが、全体として、下記の課題を挙げた団体が多かった。

- ・活動場所の不足
- ・活動場所に十分な広さがない
- ・活動場所があっても、常にその活動に使えるわけではなく、その都度の準備や片付けが負担

2.人材

「特に問題なし」(絵画, 木工, ダンス, 演劇)と回答した団体もあったが、多くの団体は、下記の課題を挙げた。

- ・人員不足(活動に関わることができる職員・スタッフ数の不足)
- ・(スタッフの)時間不足
- ・(スタッフの)知識不足
- ・(スタッフの)専門性不足
- ・スタッフの属人性の高さ(特定のスタッフのみがその活動を担っているため、そのスタッフが不在の場合は活動がストップしてしまうなど)

3.資金

「予算が少ない」「十分ではない」という回答が多かった。

とはいえ、直ちにどこかで予算を得られるわけではなく、「現状は、ある範囲でなんとかやっている。」という団体も一定数あった。

4.作品の保存

課題は「特にない」「特に問題と感じていない」(絵画等)とする団体もあるが、「保存方法がわからない」「保管場所」「管理手法」についての課題をあげる団体があった。

5.発表の機会

定期的に発表の機会を持つ団体が一定数ある一方で、発表の機会を持たない団体や、持ってはいるが十分ではないと感じている団体も多かった。

6.利用者の高齢化や障害の重度化

他の課題と比べて、この点について課題を述べる団体は多くなかった。

課題をあげた団体の場合は、活動内容(例えば絵画やダンス)にかかわらず、下記のような同様の課題をあげていることもあった。

- ・「高齢化により利用者様の歩行が困難となり、サポートする人数も少ない為、断念される方もおられ、心苦しく思っている。」(ダンス)
- ・「創作を継続するためのサポートが難しい」(絵画、陶芸)

また、**これからの課題**として下記をあげる団体もあった。

- ・「活動の創作だけでなく、身体面の支援が必要となった場合、より職員の確保が難しい」
- ・「今後高齢化が始まるため心配している」(音楽)

ここでも、「利用者の高齢化や障害の重度化」に関する課題を解決するための「人員不足」「知識不足」などが問題となっている様子が伺える。

「高齢化、重度化は全てにおいて課題となってきている」(絵画)という回答もあり、アート活動に限らず、課題を抱えている様子も見られた。

7.情報

全体を通して、課題としては、下記のような「情報量不足」、「情報入手場所の不透明さ」、「情報活用の難しさ」が活動内容を問わず、多くあがった。

- ・「情報が少ない」(絵画, 音楽, デジタルアート)
- ・「どこで情報を入手したらよいかわからない」(絵画、音楽)
- ・「情報はあっても、活用やマッチングに課題がある。」(織物, 木工, 音楽, ダンス)

障害者芸術文化活動普及支援事業等について

奈良県

1. 厚生労働省が実施している障害者芸術文化活動普及支援事業について知っていますか？

2. お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センターを知っていますか？

奈良県 回答件数 29件中

- ・両方知っている 13件
- ・「障害者芸術文化活動普及支援事業」のみ知っている 4件
- ・「お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センター」のみ知っている 2件
- ・両方知らない 10件

3. (※知っていると答えられた方は)お住まいの地域の支援センターへ実際に相談をしたことはありますか。

- ・相談したことがある 1件

満足度 4「時間をとって親身に話を聞いていただいた。参考になりました。」(絵画,陶芸等、活動年数回答なし、生活介護事業所)

大阪府

1. 厚生労働省が実施している障害者芸術文化活動普及支援事業について知っていますか？

2. お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センターを知っていますか？

大阪府 回答件数 11件中

- ・両方知っている 2件
- ・「障害者芸術文化活動普及支援事業」のみ知っている 1件
- ・「お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センター」のみ知っている 0件
- ・両方知らない 8件

3. (※知っていると答えられた方は)お住まいの地域の支援センターへ実際に相談をしたことはありますか。

- ・相談したことがある 1件

満足度 4「細かな相談をいつもさせて頂いています。」(絵画, 音楽, ダンス, 11年以上、生活介護事業所)

京都府

1. 厚生労働省が実施している障害者芸術文化活動普及支援事業について知っていますか？

2. お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センターを知っていますか？

京都府 回答件数 14件中

- ・両方知っている 5件
- ・「障害者芸術文化活動普及支援事業」のみ知っている 3件
- ・「お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センター」のみ知っている 0件
- ・両方知らない 6件

3. (※知っていると答えられた方は)お住まいの地域の支援センターへ実際に相談をしたことはありますか。

- ・相談したことがある 2件

「相談したことがある」団体のコメント等は下記の通り

- ・満足度 2「相談はしても、活動に繋がっていない。」(絵画, 陶芸, 織物, 音楽, ダンス, 11年以上、就労継続支援B型、生活介護)
- ・満足度 4 コメントなし(織物, 音楽, 11年以上、生活介護、B型、共同生活援助)

和歌山県

1. 厚生労働省が実施している障害者芸術文化活動普及支援事業について知っていますか？
2. お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センターを知っていますか？

和歌山県 回答件数 12件中

- ・両方知っている 4件
- ・「障害者芸術文化活動普及支援事業」のみ知っている 1件
- ・「お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センター」のみ知っている 0件
- ・両方知らない 7件

3. (※知っていると答えられた方は)お住まいの地域の支援センターへ実際に相談をしたことはありますか。

- ・相談したことがある 1件

満足度 4「ネットワークが良好」(絵画, 書道アート、8年間、就労移行支援、自立訓練(生活訓練)、生活介護)

兵庫県

1. 厚生労働省が実施している障害者芸術文化活動普及支援事業について知っていますか？
2. お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センターを知っていますか？

兵庫県 回答件数 145件中

- ・両方知っている 16件
- ・「障害者芸術文化活動普及支援事業」のみ知っている 25件
- ・「お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センター」のみ知っている 3件
- ・両方知らない 101件

3. (※知っていると答えられた方は)お住まいの地域の支援センターへ実際に相談をしたことはありますか。

- ・相談したことがある 4件

「相談したことがある」団体のコメント等は下記の通り

・満足度 4「相談対応は満足だが、自治体としてセンターに十分な職員確保がされておらず、限られたセンター職員に対応が集中しているように感じます。多くの方が相談したいと思う反面、受け皿となるセンターの基盤作りを強化することを願います。」(絵画, 木工, 版画, 粘土, クラフト, 手芸, 11年以上, 生活介護)

・満足度 4「兵庫県の場合、県が担っている。担当者ひとりで運営しているのでフォローできればと、」(絵画, 陶芸, 織物, 木工, 版画, 音楽, ダンス, 3年間, 生活介護)

・満足度 3「事務手続きであってアートに関する特段の対応はない」(音楽, 11年以上, 就労継続支援B型・グループホーム)

・満足度 2「民間企業のため、特に受けられる助成などはないとの回答であった。」(演劇, 5年間, 障害児通所支援事業)